間、不レ能詳候。恐々謹言。

五月廿四日　　光誠　在判

栗棘庵

尊報

飯川若狭守

（上書）栗棘庵

尊報

光誠

○

【永光寺文書】鹿島郡　　二三七一

爲御音信、御屋形様（畠山義綱）に青銅貳百疋御進上、則令披露候。御祝着旨被成御書候。猶御心得可申入趣候。次私に三十疋被懸御意候。御懇志難申盡次第候。委細御使僧へ申入候条、不レ能詳候。恐々謹言。

飯川若狭守

三月十日　　光誠　在判

永光寺

侍者禪師

○

【永光寺文書】　　二三七二

御屋形様（畠山義綱）に爲御音信八木三袋、御隱居様（義續）に貳袋御進献候。則遂披露候。遠路別而御祝着趣、被成御書候。御出張刻御寺内御寺領等、聊無異儀様可被仰出趣、相心得可申入旨候。就中二本松殿に壹袋御進献、是又申理候。御祝着趣被成御一札候。猶得其意可申入由候。次拙者に壹袋被懸御意候。御懇志之段恐悦至極候。巨細御使者に申入候條、不レ能詳候。恐々謹言。

飯川若狭入道

宗（光誠）　玄　在判

三月六日

永光寺

侍者禪師

（二本松殿を、從來寳松殿と記したるものあるは原文書の誤讀なり。）

○

【永光寺文書】　　二三七三

爲御音信鳥目五拾疋被爲參候。則御書中之趣致披露候。御祝着之由、相意得可申入候旨候。猶使僧に申入候之條、不レ能二二候。恐惶頓首。

五月廿三日　　詮　正　在判

永光寺

御同宿中

○

【永光寺文書】　　二三七四

端書無之

歳暮爲御祈念、御卷數并御樽代貳拾疋御進上候。則令披露候。可然樣爲拙者相意得可申述旨被仰出候。必來春者、早速御參僧肝要候。自分へ御卷數拜領候。猶御使僧へ令申候条、令省略候。恐惶謹言。

富來小次郎

極月十六日　　綱　盛　在判

永光寺

侍者御中　御返報

○

【栗棘庵文書】山城　　二三七五

追而申上候。我等方へ御書、爲御音信扇子五本被懸御意候。目出拜領忝次第候。仍而當納之御義者、八月中委許可申調候之間、早速御使者御下候儀、尤可然存候。此方相當御用之儀可蒙仰候。聊不可有疎心候。猶期後音之時候条令省略候。

新春之御慶漸雖事舊候珍重々々、尙更不可有休期候。仍年内者屋形樣并賴候者へ、御佳例之御音信、爲御使新左衞門尉殿被差下候。其折節拙者令在郷候故、子にて候者を以何も令披露候。則從各も以返事被申入候。次御寺納之儀も、六千疋之分代物にて相調、御使者へ渡被申候。其内を以、からむし八拾把貳拾三貫五百文に御めし候。其外之儀者拙者不存候。隨分於爰元馳走令申候シ。當納御催促之儀者、頓而秋中ニ下可被申候。涯分申調渡可申候。就中屋形樣へ之御茶、去々年參不申ニ付て、賴候者方へ之御茶を十袋上被申候間、當秋御下之砌相添下